

大学文理学部紀要 1: 80-85. ————— 1956: 植物分類地理 16: 106.
 ————— 1956: 植研雑 31: 374-375. ————— 1957: 千葉大文理紀要 2: 179-
 211. —————: 1957: 千葉生物学会報 6: 127-134. 緒方正資 1940: 植研雑
 16: 36. 大井次三郎 1957: 大日本植物誌シダ篇。 Prantl, K. 1884: Jahrb. bot.
 Gart. Berlin 3: 297-350. 田川基二 1939: 植物分類地理 8: 135. —————
 1949: 植研雑 23: 76. ————— 1958: 植研雑 33: 202-203. Verma, S. C.
 1957: Cytologia 22: 393-403. Walker, E. H. 1952: 沖繩植物誌。 湯浅 明
 1934: 植雑 48: 567-570.

図版説明

Plate 1 A: アメリカ国立博物館の標本 no. 18775 *O. petiolatum* と同定されている。

1893年5月、戸田原で採集されたものであるが、胞子をしらべた結果 a, b の2個は *O. vulgatum*, c, d, e, f, g の5個が *O. petiolatum* である。

B: *O. thermale* (西田 no. 116 千葉県九十九里海岸産 Gh)

C: *O. petiolatum* (西田 no. 112 千葉県一の宮産 Gh)

D: *O. vulgatum* (西田 no. 103 千葉県成田産 Gh)

Plate 2 A: *O. austroasiaticum* sp. nov. (田川 no. 339 台湾阿里山産 Kyo)

B: *O. nudicaule* (津山 1937年 パラオ島産 TI)

C: *O. vulgatum* (行方 no. 3062 千葉県成田産 Gh)

D: *O. petiolatum* (西田 no. 109 千葉県成田産 Gh)

〇ワニゲチソウの一品 (檜山庫三) Kōzō HIYAMA: A new form of *Polygonatum involucreatum* Maxim.

上州赤城山にワニゲチソウで葉裏が淡緑色で粉白とならぬものがあって1939年6月18日に採集した。葉縁もほとんどざらつかず、また、これは問題でないが葉数も少し多くて8枚ある。しかし花部は常のワニゲチソウと変らない。花冠裂片は終いに反曲するにいたる。草本図説のワニゲチソウの条下に「此類大小二種アリ分所図ハ小者ニシテ其大者ハ葉差円シテ剛シ」とあるが、この大者の正体は不明である。また同書には「似類ノ品ミナ花梗葉腋ニ出特リ此種ハ然ラズ」とあって、図版中の1本はたしかに花序を葉間につけているが、これはちよつと信じられない。なお Franchet & Savatier の *Peribillanthus involucreatus* そのものは江戸産の標本によって記載されたものであるから、これはワニゲチソウの常品で葉裏の粉白なものであると考えられる。よって上記の異品にアカギワニゲチソウの名を与える。

Polygonatum involucreatum (Fr. & Sav.) Maxim.

forma **akagiense** Hiyama, forma nov.

Folia subtus pallida non glaucescentia.

Hab. Hondo: Mt. Akagi, Prov. Kodzuke (Hiyama—Jun. 18, 1939—type in Herb. Nation. Sci. Mus. Tokyo).